西東京市市民協働推進センター

平成30年度第9回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成31年1月15日(火)午後7時00分～9時00分
■開催場所：イングビル3階第3、4会議室
■出席委員：海老澤委員、熊谷委員、古林委員、佐藤(文)委員、鈴木委員＜以上5名、五十音順＞
■事務局　：小松センター長、熊原、妻屋福祉活動推進課長、山田地域福祉推進課係長

今回運営委員の出席が過半数に達しない為運営委員会は成立せず。

1.報　告　事　項

1.業務報告について

事務局より、12月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委　員：協働コミュニティ課から送られてきたアンケートの出し方がわからないという相談だが、内容について聞きたい。

事務局：ゆめこらぼが3年に一度行う団体実態調査とほぼ同じ内容のアンケートで、団体の規模や活動の内容、ゆめこらぼに関する質問等だ。その中の質問で、給与を支払っていない団体も多いので有給職員についての回答の仕方がわからなかったようだ。

委　員：NPOに限らず市民活動全体か。

事務局：ゆめこらぼに登録していない団体にも送付した。

委　員：参考になる事柄があるなら是非共有して欲しい。

2. 1月以降の事業について

事務局より、1月以降の実施事業について説明があった。

委　員：中部地域協力ネットワークのエリア、含まれる団体を知りたい。

事務局：地域としては、田無町、北原町、保谷町、泉町、住吉町になる。構成メンバーは、自治会町内会、教育・学校、子育て分野、福祉分野、商店街や農業分野などや、NPO法人。加えて行政として警察、消防、市役所（協コミ）そしてゆめこらぼも含まれる。

委　員：中部地域ネットワークのテーマは何か。

事務局：現時点では、はっきりした方向性が決まってないので、今後活動の中で決めていく。行政が先導している事業だが、回を重ねることで成熟していくのではないかと考えている。

委　員：南部や西部の活動の実績の中から事例として伝えてもいいのではないか。

事務局：そう考えている。

2. 審　議　事　項

1. 前回の会議録について

委員長：現時点で委員の定数に満たないため、保留とする。

3. 協　議　事　項

1. 運営委員会について

事務局より平成31年度西東京市市民協働推進センター運営委員会委員名簿（案）について説明があり、次期運営委員候補について協議した。

2.センターの業務執行に関する事項（重点事業の企画）について

事務局より地域活動・スタート交流会（企画案）について説明があった。

委　員：19日はツアーはやらないのか。

事務局：行う。そのほかにフォローアップ交流会を行う。

委　員：希望者は登録制にするのか。

事務局：登録制にする予定。ゆめこらぼの活動の手伝いをしてもらいながら市民活動を知ってもらえればと考えている。そこからデビューしてもらえればいい。

委員長：ボランティアセンターに来た人をゆめこらぼの交流会に繋げるというのはいいのではないか。

事務局：ボランティアを募集するのではない。事業を手伝う人を募集している。

委員長：ゆめこらぼの手伝いをする人をボランティアセンターで募集するというのはどうか。

事務局：それも有だと思うが、ボランティアセンターのカバーしている範囲が広い。市民活動を始めたい前段階としてのボランティアなので説明が難しい。

委員長：ちょっと時間があるからボランティアをするというのと違うということか。

事務局：今までは、おとぱミディサロンに参加して、市民活動に加わってほしいという流れ。今回はおとぱミディサロンが飽和状態で循環がうまくいっていない。ならばまだ決めかねている時間を有効活用してもらいたいということか。対象が個人であればボランティアセンターを窓口にするのも有というのが委員長の意見だ。

事務局：市民活動を始めたいという人を集めたい。

委員長：事業主体が違うが、将来的にゆめこらぼとボランティアセンターが融合できればいいと考えた。

委　員:窓口は広い方がいいと思う。ボランティアセンターを使うことも一つの考えだ。

事務局：ツアーで学生のグループを作る。交流会には学生も参加してもらい市民活動を身近に感じてもらいたい。

委員長:いろいろ意見が出たので、それを踏まえつつ進めてほしい。

事務局よりNPOパワーアップ講座「もっと知ろうよSDGs」（企画案）について説明があった。

委　員：板橋区でもやっているが、西東京市でもいろいろな課題があり、身近なことだと考える機会になると良い。

委員長：SDGsは中部や西部の地域ネットワークのような団体も関係しているのか。

事務局：西東京市で活動している団体でSDGsに紐付けられない活動はない。

事務局：簡単なSDGsを知るという講座だが、自分達の活動を見直す機会になればと考えている。

委　員：17のゴールがきれいなタイルになっていてわかりやすい。

委員長：チラシが出来たらメールなどで送って欲しい。

3.自主企画委員会（やってみ隊）の進め方について

事務局より平成30年度第2回開催（1月26日）概要（案）について説明があった。

事務局：交流会には運営委員の方にも参加して頂きたい。

副委員長：活動団体間コミュニティという言葉のイメージがつかない。

委員長：第一回で出た意見に対してゆめこらぼの登録団体に意見を求め「この指とまれ方式」で集まってグループ化して活動できれば面白いと思った。

事務局：当日の発表役の委員は、「活動団体間コミュニティ」という言葉について違う表現にした方がよいと思うか。進捗の状況とか話題の提供をする役割なのでどのような文言ならばよいのか。

委　員：やってみ隊の話をするなら「知って、感じて、書いてみよう」の方がしっくりくる。交流会に来る団体は交流するのは良いが、団体間でコミュニティを持ちたいと思っているのか疑問である。団体間でなにか一緒にやろうと思っていない参加者にとっては居心地の悪い時間になるのではないか。前提とするのはよくないと考える。

事務局：団体の人同士でも話したいという意見がある。フェスティバルでお互いの活動が見える中、別に時間を取って何ができるか模索する時間も必要だと思う。そういう意味でのコミュニティととらえて欲しい。初期段階なので団体の意見が出ればよいと考えている。

委員長：フェスティバルの実行委員たちはこのテーマ、流れでいいと感じているのか。

事務局：賛同は受けている。

委員長：フェスティバルの実行委員はゆめこらぼのコアユーザーばかりではないはず。協働に対しての志向がない人も混ざった中で決定されているので、個人としてはいおもしろいと思っている。

事務局：意見を記入する用紙の文言の限定をしなければいいのではないか。

副委員長：この文言では広がりが持てず厳しい。「NPO市民フェスティバルに参加して知って、見て、感じたことを書いてみよう」などではどうか。

事務局：やってみ隊の報告を聞いて好きなことを書いてくださいというスタンスでよいと考えている。続けて話合うことが大切であり、短い時間なのでその時グループで話合った自由な意見を記入してもらえれば良い。

委員長：頂いた意見を参考に、本番に臨むこととする。

4. そ　の　他

1. 2019年度実施予定市民協働推進センター受託に関わる協議について

事務局より前回（平成27年）スケジュールと今回（平成31年予定）スケジュール（仮定）について説明があった。

委員長：来年度で受託期間が終わる。それに伴い次回の準備が始まる。前回2年間の振返りをする為に運営委員にはどのような資料が提供されたのか。

事務局：以前は運営委員会に、仕様書をベースにゆめこらぼの実績に対してのアンケートを書いていてもらい集計した。そのアンケートに答えてもらうために活動報告書、決算報告書を用意した。

委員長：受託は社会福祉協議会がするので、運営委員会で受託に関しての話をする意味があるのか。

事務局：運営しているのは運営委員会である。現場としての意見をまとめたうえで、法人としての意思決定につないでいきたい。

委　員：確認だが、市からいつ条件が提示されるかスケジュールはどうなっているのかが聞きたい。
事務局：未定だ。
委　員：この委託には金額提示がある。金額という条件が出されてからの意志決定になるのか。このセンターを運営していくのに金額設定が適当であるかどうか協議する段階で提示されていることは重要だと思う。行政側も予算が厳しい中予算の削減も考えられるので、それを踏まえて意思決定をするためそのスケジュールは考慮すべきだと思う。

2. 保留の審議事項について
委員長：定数に満たなかったため審議事項に対する決定がなされない為、次回に審議事項の決定を行う。

3. 次回運営委員会日程について
日時：2 月 19 日（火）19 時～21 時
会場：イングビル 3 階　第 3、4 会議室